

つて龍宮へ往いたなど、一々擧ぐることはできません、斯ういふ話をして、なせこんなになつたであらふ、なせかうゆふ様にするであらふと、根問せられたら何んと平たく話しませう、私しは慥な答は六つか敷と思ひます、

此の様な話しは、今は小學校でも教へることゝなつて、立派に修身書とか國語讀本とかいふ、教科書ともなつてれる都合なれば、種々御研究の結果最も適當のものには相違ありませんが、家庭で話とするにはどれが一番よきか疑ひのまゝ伺ひ申します。

御説に付きては、外國でも多少議論がある様です何れ近刊の分に於て、此問題につきて記すことに致しませうか、夫よりも愛讀諸姉のこの説に付きて賛否の御意見が伺ひたひものです。

○上總のハ子つき歌

東京 じ、はやし生

●正月二月、三月四月、五月六月、七月八月、九月十月、霜月師走、正月の元日に、伯母御の所へ行つたれば、お芋と大根、煮てかせて、まつと喰ひたえと、いつたれば、箸で喉つゝいた。
●正月はいゝもんだ、木ツ端の様な、餅食つて、油の様な、酒呑んで、雪の様な、飯食つて、毎日々々遊んで、こないゝ事は、たんと無え。
●ビイヤ、チャツビヤ。小松の山の、小枝の葉。といろが下つて、一俵よ。

つごめよき親もあたらぬ巨謎かな 嵐 雪